

平成27年度 大同大学卒業研究  
愛知ブランド企業(株式会社三浦太鼓店様)広報企画

慶応元年創業  
三浦太鼓店



三浦太鼓店×中日ドラゴンズ

# 中日ドラゴンズ共闘プロジェクト

上岡研究室  
D12012 伊藤和規

# 中日ドラゴンズ共闘プロジェクト



- 中日ドラゴンズ共闘プロジェクトとは

「ドラゴンズファンによる応援団」を結成し、太鼓を使った応援をすることによりドラゴンズと共にシーズンを闘っていくプロジェクトである。

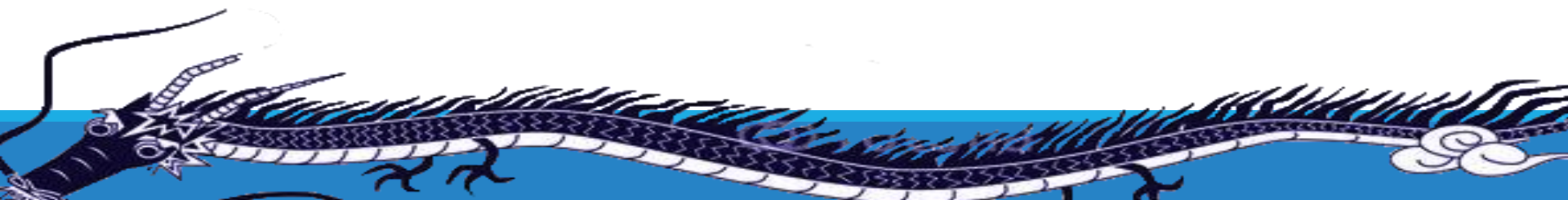
- 三浦太鼓店と中日ドラゴンズとコラボレーションさせる理由

プロ野球の応援は鳴り物＝太鼓を使う。

選手専用の応援歌やチャンステーマなど様々な曲を演奏することができる。

中日ドラゴンズの公式応援団はできたばかりで他のチームと比べると質が低い。

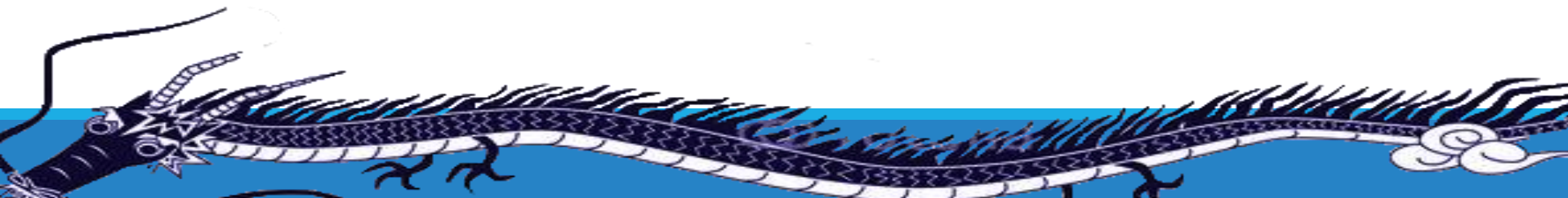
このプロジェクトを通して応援団の質を高める。



# 応援団を結成する理由



- 応援団を作ることにより、ドラゴンズファンと太鼓の距離を近づけ、太鼓への関心度を上げる。
  - 太鼓の生産者、企業数、従業員数が減っている中、太鼓に興味を持ってもらうのはとても重要である。  
\*後頁データ(1)参照
  - 太鼓の魅力というのは実際に太鼓を演奏したほうが伝わりやすく、太鼓の演奏の楽しさや太鼓の魅力を知ってもらう。
  - ここ数年中日ドラゴンズはBクラスで低迷している。年々ファンが減少している中、球団側もファンを増やそうと様々なイベントを企画しているが効果がない。  
\*後頁データ(2)図1参照
  - またプロ野球離れも最近目立ってきている。 \*後頁データ(2)図2参照
  - 現状を打開するためにも、ファンと球団がより近づけるイベントを行うことにより、ファンがまた球場に足を運ぶきっかけになる。

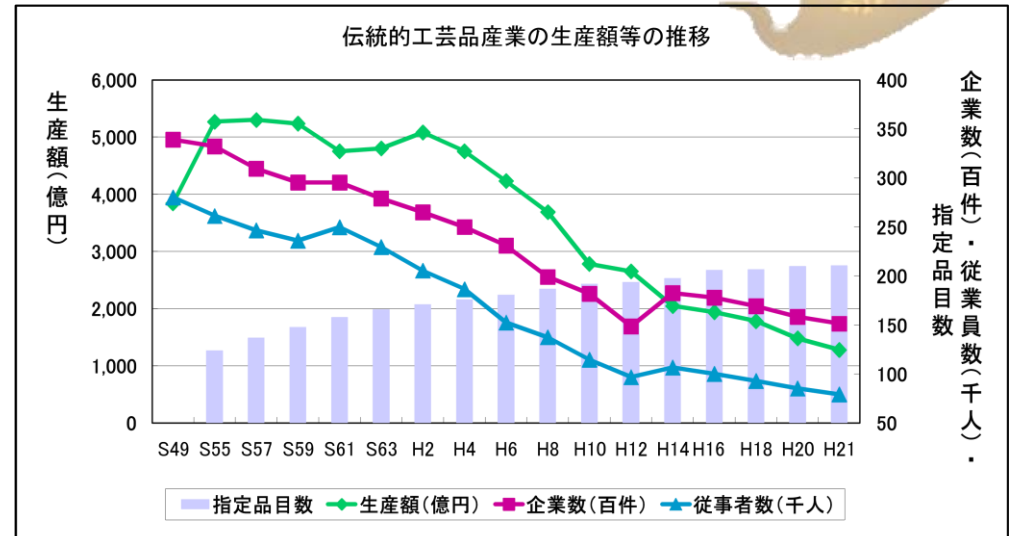


# 企画参考データ(1)

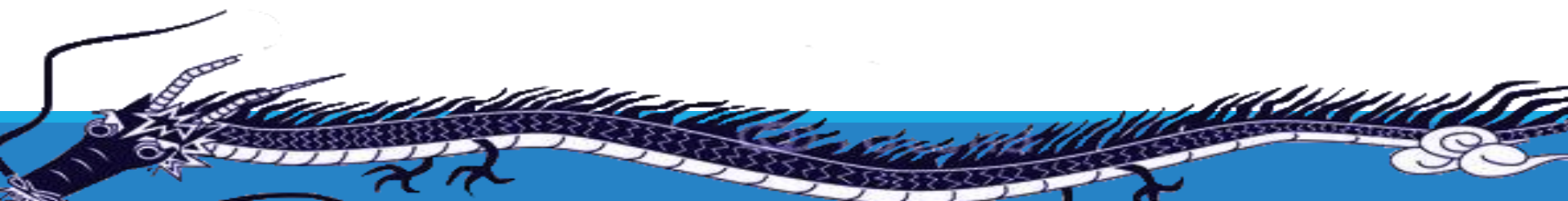


日本の伝統工芸品産業の生産額の推移を示したグラフである。  
太鼓は伝統工芸品の中に含まれ、生産額、企業数、従業員数が年々減少してきている。

引用 伝統的工芸品産業振興施策 (2009年8月)



(出典: (財)伝統的工芸品産業振興協会調べ)



# 企画参考データ(2)

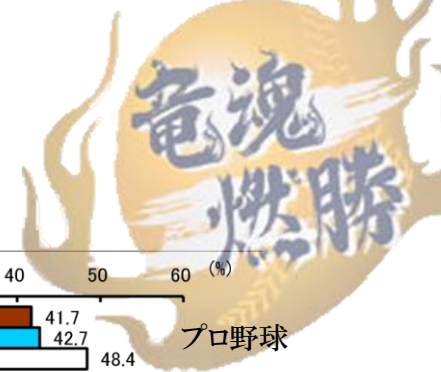


図1は中日ドラゴンズホームゲーム観客動員数ランキングの表である。  
中日ドラゴンズの順位が下がると観客動員数が減っているのが読み取れる。

図2は中央調査社による第23回「人気スポーツ」調査の結果のグラフである。  
プロ野球は人気度が一番高いが人気が年々下がっているのが読み取れる。

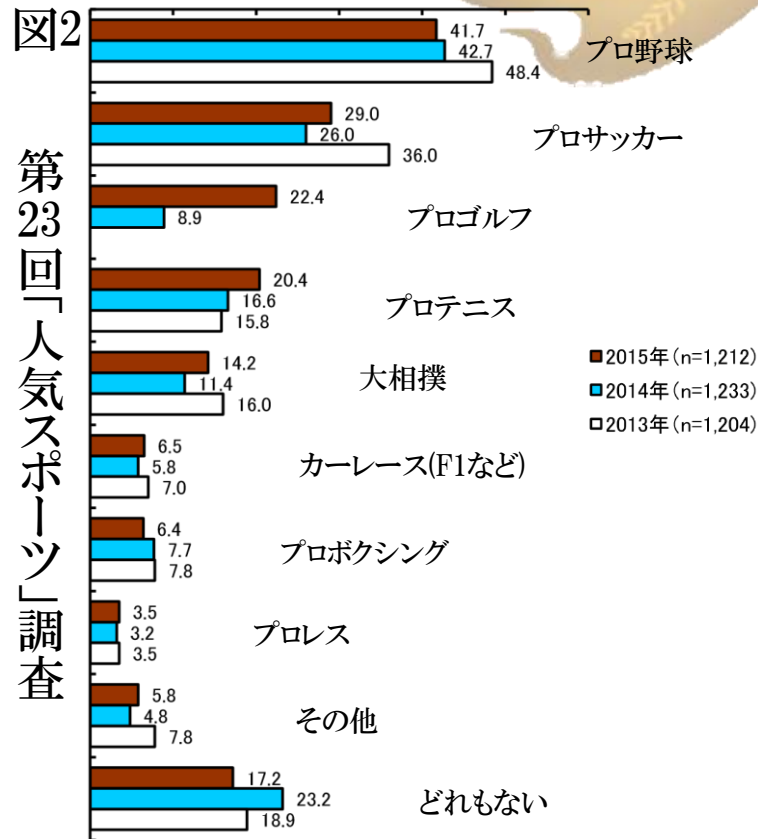
図1

ホームゲーム観客動員数ランキング(中日ドラゴンズ)

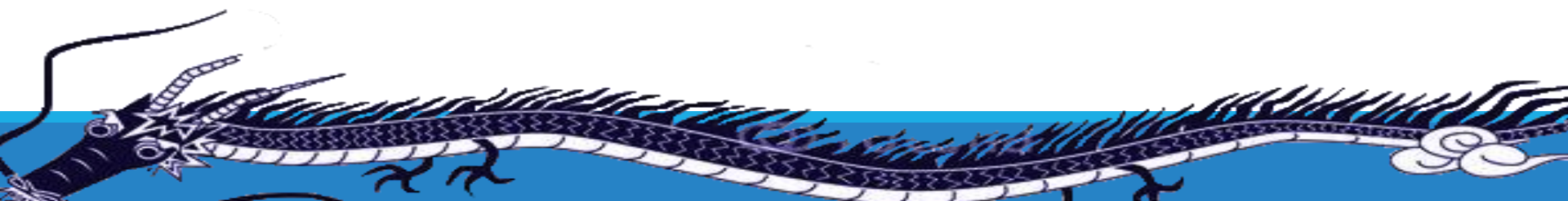
年度	順位	一試合平均	試合数	合計
2011年	1位	29,777人	72試合	2,143,963人
2012年	2位	28,896人	72試合	2,080,530人
2013年	4位	27,790人	72試合	2,000,912人
2014年	4位	27,753人	72試合	1,998,188人

引用 プロ野球Freak 観客動員数より(2014年)

図2



引用 一般社団法人 中央調査社 第23回「人気スポーツ」調査より (2015年7月)

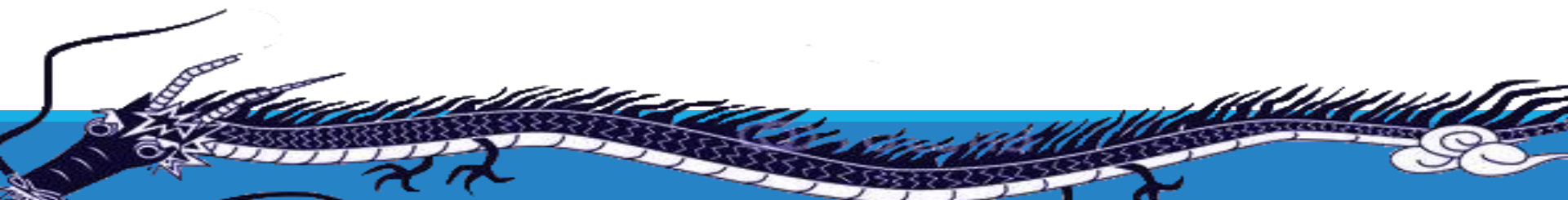


# 新設応援団について



- 本企画ではドラゴンズファンによる応援団を結成し、現ドラゴンズ公式応援団と共に中日ドラゴンズを応援する。
- 新設応援団では太鼓を使って応援する。
- 新設応援団の応募は11月末のファン感謝祭から開始する。ファン感謝祭では「和太鼓零」  
\*後頁 詳細ご説明  
の皆様による三浦太鼓店六代目三浦和也様が作曲した応援歌の披露やファン感謝祭のブースに太鼓体験コーナーの配置で太鼓を使った応援に興味を持ってもらう。

※三浦太鼓店様には太鼓の貸し出し、応援歌作曲、演奏指導をして頂き、「和太鼓零」に2試合演奏に来て頂く。



# 和太鼓零～ZERO～について



- 和太鼓零～ZERO～とは三浦太鼓店六代目三浦和也様が創設した和太鼓を演奏する団体である。

- 2004年11月に和太鼓を通し自分たちの熱い思いを伝えたいと結成。

日本の伝統文化である和太鼓の“活きた音”を伝えたい、人々の心の奥深くに響く、和太鼓の本当の”音”を届けたいと現代的にアレンジされた楽曲などを取り入れている。

現在は年に一度のコンサートホールでの自主公演、各種イベントに参加し活躍。

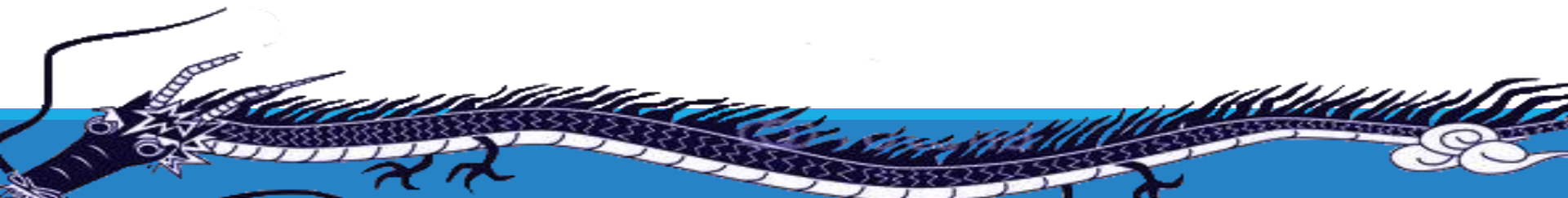


# 新設応援団名



# 昇竜団

新設応援団名は竜が昇るように勝ち続け、頂点へ行けるよう応援する団という意味を込めてつけました。





# 昇竜団ユニフォーム



- 法被をイメージ  
中日ドラゴンズ選手のレプリカユニフォームの上に着る。

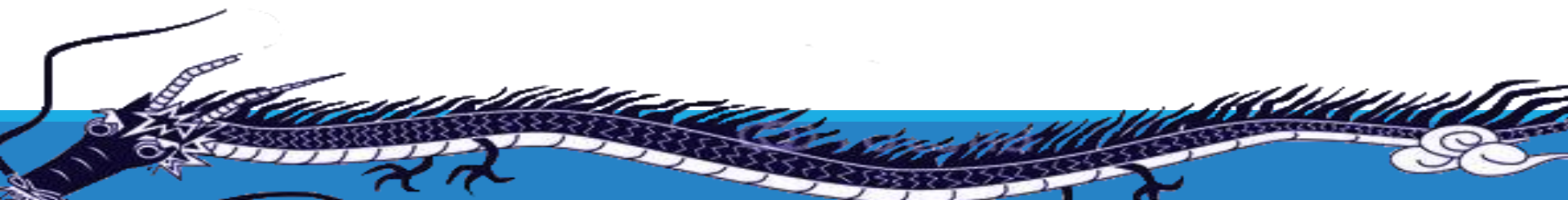


表



裏

背中には名前と  
ドラゴンズのスローガン



# 昇竜団 応援装備品

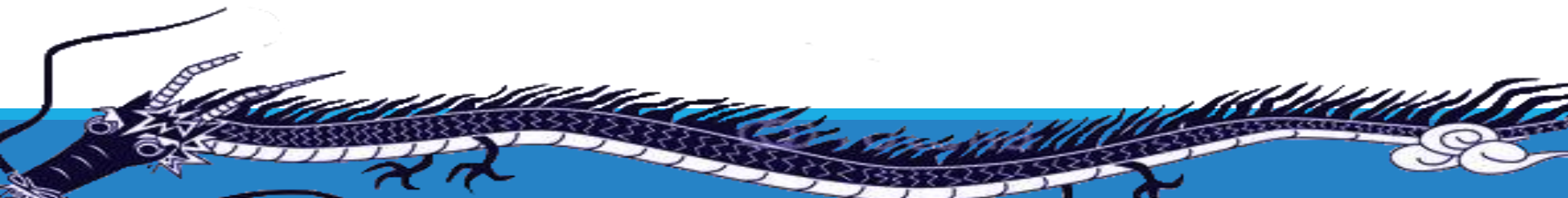


- ドラゴンズ攻撃時、応援に使う昇竜団の応援団旗や太鼓をデザイン

昇竜団 応援団旗



昇竜団 太鼓



# 昇竜団 活動アイデア(1)

竜魂  
燃勝

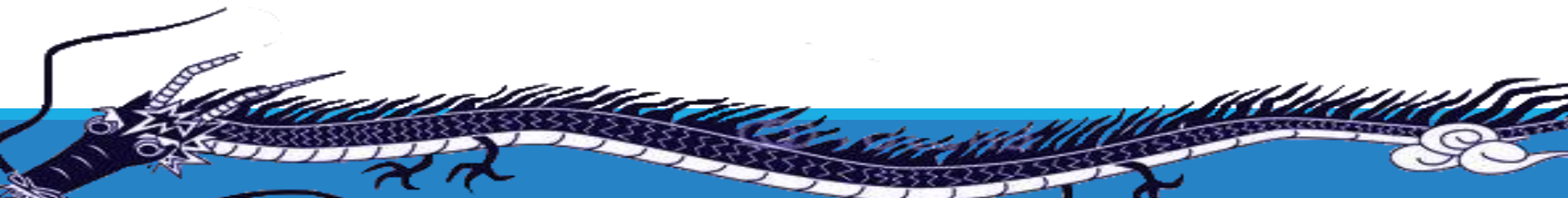
# 共鳴昇竜デー

<コンセプト>

三浦太鼓店様の取り扱う「和太鼓」は日本の重要な文化の一つである。

和太鼓の魅力というのは、奏でる音そのものである。

本施策では、中日ドラゴンズの1年の日程の中に「共鳴昇竜デー」としてファンが昇竜団として太鼓を使った応援をする日を組み込み、和太鼓の演奏の楽しさ、和太鼓の良さを味わっていただく。



昇竜団 活動アイデア(1)-2

# 共鳴昇竜デー活動内容



中日ドラゴンズの応援を太鼓を使って行う活動

ドラゴンズ攻撃時に選手の応援歌、チャンステーマを演奏

日時 (案)

4月9(土) ジャイアンツ戦

18:00～試合終了まで

4月23(土) ヤクルト戦

18:00～試合終了まで

※5月からもホーム戦土曜日、  
日曜日に開催

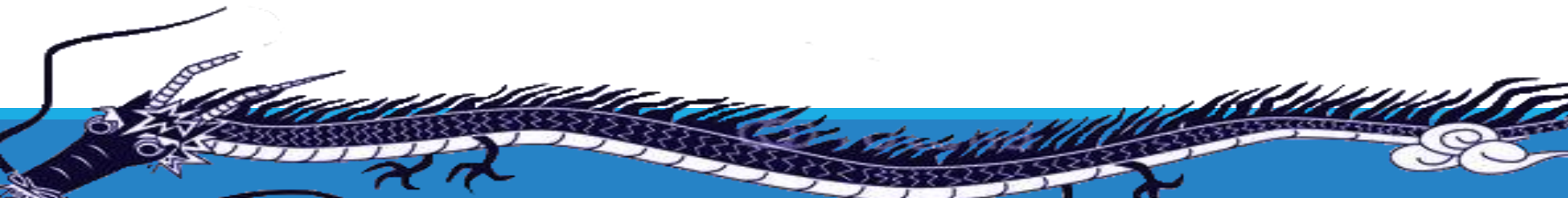
場所 (案)

ナゴヤドームライトスタンド

人数 (案)

一試合25人程度

※人数はファン感謝祭に来る2万5千人の中の約1%の  
約250人が応募すると仮定し、4月から9月までの6か月間、  
一月2回イベントを行うため一試合25人程度



昇竜団 活動アイデア(2)

# 団員募集ポスター



ドラゴンズファンに興味を持たせるためのポスターなので情報は少なめにして、中日ドラゴンズHPの「ファン応援団結成について」のページへ誘導する。

このポスターは11月末のファン感謝祭後から応募終了時まで中部地区の駅などに貼る。



**昇竜団員募集！**

「共鳴昇竜デー」の応援団員を募集します。

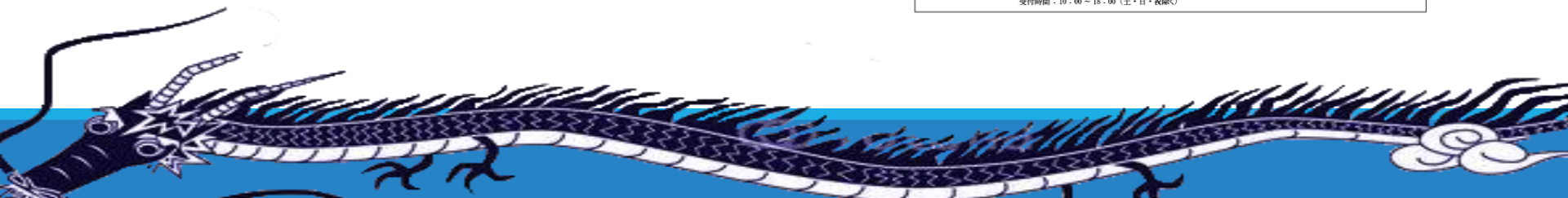
「共鳴昇竜デー」では昇竜団による応援をします。  
昇竜団というのは中日ドラゴンズファンで構成された応援団で、選手の応援歌やチャンステーマを太鼓で演奏します。  
太鼓未経験者の方でも太鼓の演奏家による演奏指導がありますので大歓迎です！  
詳しくはドラゴンズHPの「昇竜団結成について」のページをご覧ください。

**応募資格**  
中日ドラゴンズを愛してくださっている方。  
2016年4月1日時点で満16歳以上の方。  
性別は問いません。

**昇竜団**  
Dragons × 三浦屋鼓者

お問い合わせ先 株式会社 中日ドラゴンズ 応援団係  
〒460-0008 名古屋市中区東4-1-1 中日ビル6階  
TEL: 052-281-1800  
受付時間: 10:00 ~ 18:00 (土・日・祝除く)

中日ドラゴンズHP  
URL <http://dragons.jp/>



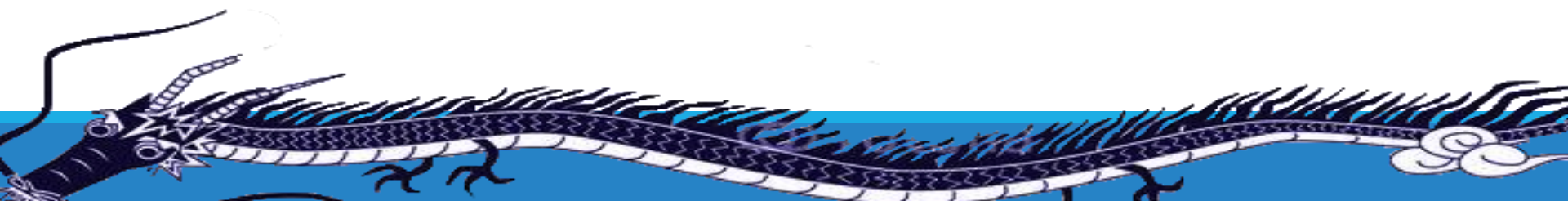
# 昇竜団 活動アイデア(3) 活動告知ポスター



Live!Dragons!というドラゴンズが毎年作っている2か月分のナゴヤドームで行われる試合の日程を告知するポスターがある。

※Live!Dragons!は横枠ポスターなので本ポスターも横枠ポスターにしました。

「共鳴昇竜デー」の日程告知ポスターをシーズン通して電車、駅等に貼る。



# 昇竜団活動スケジュール



11月

11月末応募開始 ファン感謝祭にて「共鳴昇竜デー」について説明



12月

12月末応募締め切り

1月

1月中旬までにメンバーを決定し、その旨を通知

2月 3月

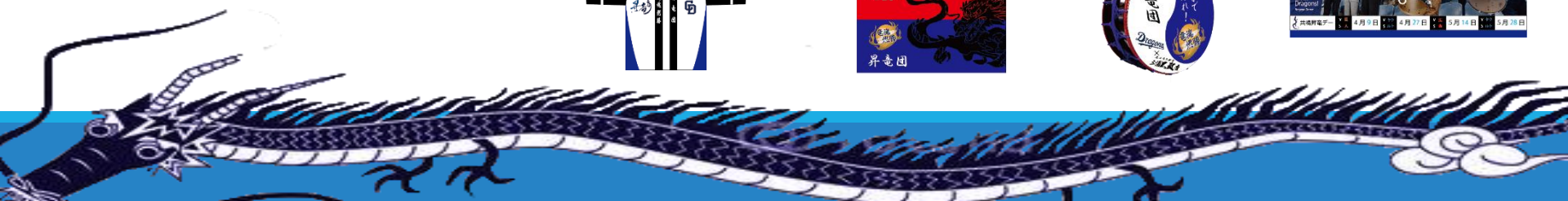
ナゴヤドームで練習 3月にはオープン戦で演奏

4月

4月9日(土)ジャイアンツ戦 4月27日(土)東京ヤクルト戦で開催

5 6 7 8 9月

月2回土曜日、日曜日ナゴヤドームでの試合に開催



# この一年間を通して



私は約一年間に渡る活動の中で様々なことを知り、学びました。

社会におけるマナーの数々を知り、企画を練り上げることの難しさを痛感しました。

また自分一人ではできることは限られており、周囲の人と協力しないと完成度の高いものは作れないと改めて感じました。

太鼓業界が衰退している中、三浦太鼓店様は太鼓の音にこだわり、演奏活動からの経験を活かしオリジナル商品の開発など様々な工夫をされていました。

今の仕事を続けるだけでなく、視野を広げて新しいことにチャレンジすることが企業の発展や業界の再興に繋がっていくのだと感じました。

この一年間の活動の経験はこの先必ず役に立つと思います。

